

ボトムアップです。各クラブが地区全体を支えています。夫々のクラブ例会を老若男女が参加する楽しくて活気のあるものにしていただき、楽しい例会とロータリーについての正確な知識を得る事が会員の退会防止に繋がりますし、多くの新しい会員の入会誘導にもなると信じています。多くの仲間を増やす事でより多くの奉仕活動が、可能になると考えています。

1. 環境保全、地球温暖化に手を貸そう。ロータリアン、家族を含めて植樹、清掃等地域に根ざした活動をお願いいたします。
2. 女性会員の入会を積極的に働きかけ、退会防止の為、特に新入会員に対してのロータリー情報等、奉仕・親睦の機会を捉えきめ細かな対応をお願い致します。地区として会員目標2560名を達成すべく行動して下さい。
3. 「参加して感動することに手を貸そう」のテーマのもと、インターアクト、ロータリーアクト、ライラの活動を通じて若者に参加して感動できるようにご協力ください。

以上のガバナー原信一氏のメッセージを聞き従前のロータリーとは若干違う印象を受けました。理想論をならべるのではなく、現実と結びついた話をされ力強さを感じました。

会 員 の 声： 「健康ウォークに参加して」 早川 龍雄

5月の薫風を肌に感じながら去る5月10日（土）新潟県印刷工業組合県央支部（県央支部：三条地区、燕地区、吉田地区、見附地区、加茂地区の印刷組合員28社）主催で、特にオーナーの運動不足を解消すべく、ここ数年健康に関する行事として行われている「健康ウォーク」も今年で7回を数えるまでになった。

9時30分東三条駅集合、保健所の指導員の号令にあわせて準備体操をして出発。コースはやがて舗装道路から砂利道の斜面を抜け、堤防道路に出る。いよいよ7キロコースの全容が見える五十嵐川の土手だ。昔このあたりは雪が積もるとスキー場になったものだが近年は雪もなく、又滑る子供も見られなくなった。土筆やスギナの季節もとうに過ぎ、今は緑一色の川べりを12人で足並みそろえて歩いた。時折、風が強くなって帽子を飛ばされそうになって慌てる場面が幾度とあった。全行程7キロは参加者にとって手頃な距離である。野球場から脇道にそれて、市民の憩いの森、日本庭園で休憩をとることになった。東屋からは遠く弥彦山を望み、野球場の歓声やどよめきが手に取るように聞こえてくる。

目的地に11時10分、全員疲れた様子もなく到着、そしてビールで乾杯。7キロの道のりをこのビールの喉越しを楽しむために、水を一滴も口にしなかった。砂漠に降る雨の如く乾いた喉にとめどなく染み透った。

来年も是非参加したいと思う。

第12回理事会

開催日時 平成15年5月27日（火） 11：30～12：30

開催場所 三条ロイヤルホテル

米山忠俊君 24日地区協いって来ました。次年度会長幹事の山本さん、西山さん始め、出席会員の皆さんにお世話になりながら、楽しんで来ました。ありがとうございました。

佐藤啓策君 一昨日、第二中学校の同期生による還暦を祝う会を“おゝの、さんで開催し、170名近くと会い、大変楽しい一日を過ごさせて頂きました。大野さんありがとうございました。

梨本清一君 処用のため早退をお許し下さい。

小林満君 はからずもBOXのテーブルを引き当てましたので……

地区協議会報告：

会員増強委員会 落合会員

地区会員目標 2560名

退会防止 会員の退会防止に積極的に取り組みください。最近年代の違いによる不調和から高齢者が退会されることが多い、長年に渡りロータリーに貢献された方々を大切にしたい。

増員 クラブ会長は先頭に立ち、熱意を持って会員増強に努めてください。増員目標5名（内女性2名）。新会員を定着させるため情報委員会は活動を活発に行い活力のあるクラブにしてください。これは全体の退会防止に繋がります。

職業奉仕委員会 本間委員長

職業奉仕委員長の挨拶で「元から不況の中、希望の光が見えない……モラルを欠いた社会的事件、企業の不祥事等々ありますが、今こそロータリーの理念に照らし、“職業宣言”に基づき毎日の職業活動を実践することが奉仕である」と言われました。今年度の職業奉仕活動はまず己の職業を謙虚に振り返り、考え、活気ある職業生活をしたいと思います。又卓話には実践され活気ある方々にお願いし、少しでも会員の皆様への活力にプラスになるような計画にしたいと思います。又、退会防止に少しでも力になればよいのですが。

社会奉仕委員会 阿部副委員長

・澄んだ水と空気と緑を取り戻す為に、「環境保全に手を貸そう」を活動方針とした2560地区を一大プロジェクトとする。

・地球温暖化にクサビを打ち込もう。植樹、各7分区で場所と木を選定してIM（2003.9.12）に連動して植樹する。

・環境を守るため個人レベルから対応。ハイブリッド自動車に乗り換える。生ゴミを家庭、企業から出さない。使い捨ての考え方はやめる等々

・「2560地区社会奉仕委員会」は地球環境への貢献を考えながら小さなことから着手したいという考えで展開。

・11月2日の毛利衛さんの講演会に各クラブから小学生（5年生以上）10名まで参加できる。地球環境の維持の必要性を子供達に知ってもらう。

・各会員の地区クリーン活動への積極的参加（五十嵐川クリーン作戦への積極的参加）

新世代奉仕委員会 山上委員長

委員会の今年度のテーマは“参加して手を貸そう、感動しよう!!”です。

インターアクトやローターアクトの年次大会や奉仕活動などでは全クラブが参加し若い人と接触し汗を流し感動を共有して欲しいという事でした。特に若い人達から学ぶ事も大切です、若い人達もロータリアンの接触を喜んでいる筈です。

◎因みに7/6上越市で開かれる新世代奉仕関連合同会議には委員2名以上、義務登録で参加して欲しいとの事です。登録料は各クラブ負担でとの事でした

7/25～7/26はインターアクトの年次大会です。テーマはふるさとを見つめ世界へ飛び出そう。

◎新世代奉仕委員会の委員は3年制でお願いしたいとの事でした。

新世代奉仕委員会には3つの部門があります。

- ①インターアクト 高校生または14歳～18歳までの青年で1962年に発足しました。ロータリークラブの提唱によりR Iの承認で設立される
- ②ローターアクト 18歳～30歳までの青年が能力開発にあたり知識技能を高め、地域社会の物質的社会的ニーズに取り組み、親睦と奉仕を通じ全世界の人々により信頼関係を推進する機会を与えることで1968年に発足しました。
- ③ライラ（ロータリー青年指導者養成プログラム）14歳～30歳までの若い人のプログラムで1971年に公式採用されました。若い人の指導者および善良な市民としての資質を伸ばす事に力を尽くす機会に恵まれます。

これからの若い人達にいろんな意味で家庭や社会で重要な役割を背負って貰うため、必要な事を提言しサポートして行かなければならない事を改めて再認識して参りました。

ロータリー財団委員会 岡田委員長

地区R財団の大委員長はパストガバナーの野沢勤五さんでした。現在の厳しい社会状況を考えての人選の様でした。

今年度だけの特筆しなければならない決定が1つだけありました。次年度使用できる地区活動資金の算出方法です。

●原年度の使用予定地区財団活動資金（DDF）

吉田年度（2000-01年度）の年次寄付の実績	×60% 140,155.67
吉田年度までの累計された恒久基金の運用益	
前年度からの繰越金、奨学金の調整額	70,896.20
2004-05への繰越金	▲20,021.27
地区財団活動資金（DDF）	191,000ドル

尚、2003-04年度の原年度の寄付金より地区財団活動資金（DDF）と国際財団活動資金（WF）の比率がそれぞれ50%となります。（現在DDF60%：WF40%）実際に影響がでるのは、3年後の2006-07年度からです。引き続き60%を確保するためには、原年度から20%upの実績を上げる必要になります。

会長エレクト 山本 賢

去る5月24日に開催された地区協議会において、ガバナー原信一氏のメッセージをご報告致します。

2003-04年度ジョナサンB.マジアベ国際ロータリー会長は「手を貸そう」（Lend a Hand）というテーマを掲げられました。

マジアベ会長は「2003-2004年度、私達を奉仕の道に導くために、これは単純なテーマではありませんが、しかし、ロータリーの奉仕の真髄を雄弁に語るテーマだと確信します。ロータリアンとして私達は地域社会の問題に取り組み援助を求めている同僚ロータリアンに手を貸しています。」と申されています。

そして、加えて4つのキャッチフレーズを掲げています。

あなたのクラブに手を貸そう

あなたの天職に手を貸そう

あなたの地域社会に手を貸そう

世界に手を貸そう

これら、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕などのロータリーの基本となる活動について言及され、会員各位に『手を貸そう』と訴えられています。

第2560地区ロータリアンの皆さん

ロータリークラブの基本は①「奉仕の理想」②四つのテスト③「超我的奉仕」（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）であります。そして、奉仕実践の基本はクラブ例会に出席してクラブ運営について話し合うことや相互親睦を図る事です。そして、ご存知のようにロータリークラブは